

第 104 回目の GIS News! です

青葉が瑠璃色の空に映え、風薫るすがすがしい季節です。万物が勢いを増す一年中で一番心地よく美しい時期です。

さて、今回は当組合が参加しました「東北 GIS 技術研究会」の話題です。



一面にビニールハウス
尾花沢スイカでした

NPO法人 全国 GIS 技術研究会

GIS の本格的な構築と運用には、「基図データづくり」と「最新の基図データによる GIS 運用」が不可欠です。地元の測量会社が協調して最新のデータを保有し、GIS 基図データを構築しタイムリーなメンテナンスを行うことを目的とした研究会です。(http://www.npo-zgis.or.jp/)

東北 GIS 技術研究会

NPO法人全国 GIS 技術研究会東北ブロックとして、平成 18 年度東北 GIS 技術研究会の総会があり当組合も参加しました。宮城県仙台市で東北 6 県から会員各社の代表、営業担当、技術担当が一堂に会して行われました。

最初に特別講演が行われ「地理情報標準と MercuryEvoluto の GIS 連携およびその周辺技術に関して」と題して株式会社マップコン代表取締役 馬場浩司氏から自らも関わる地理情報標準についての講演をいただきました。「地理情報標準」とは書式(フォーマット)の統一ではなくて、言葉とその概念を統一することである。現実の「もの」の縮尺いくらの「ミニチュアモデル」としての地図から、「仮想空間」上に現実の「もの」を再構築していくのがこれからの「地図づくり」である。地図・測量にかかわる言葉と概念を「標準化」し、標準化された言葉と概念を「スキーマ」で記述し、「UML クラス図」で表現し、XML で「符号化」する。作成する地図の種類ごとに「地理情報標準準拠」の標準仕様が出現する。などという現在の動向や今後の推移など、なかなか知り得ない情報を提供いただきました。

その後、各県の最近の GIS 活用事例として、農業農村管理、洪水ハザードマップ、除雪情報の配信、道路業務支援、流域下水等についての情報交換が行われました。各県の情報を共有できるこのような機会を持てることも組合組織の良いところだと思います。技術、営業ともに有意義な研修会でした。

今年も「全国縦断 GIS 実践セミナー」が 8 月 30 日に福島県郡山市で開催することも決まりました。今年度も忙しくなりそうです。

次回の GIS News!

次回は、2006 年 6 月 15 日発行予定です。よろしくお付き合い下さい!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 横山 和浩 発行日：2006 年 5 月 17 日

